

YWVOB 会 会報 No.54

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

<http://ywvob.com/>

2013 年 9 月 7 日発行

～ 54 号の目次 ～

・ YWVOB 会長ご挨拶	1	・ 自由投稿「平和という夢に向かって」	9
・ 2014 年度 OB 総会案内	2	・ 自由投稿「イギリス湖水地方を歩く」	10
・ 2013 年第 2 回役員会報告	3	・ 自由投稿「プチャマレコ・	
・ 2013 年第 3 回役員会報告	4	私のお薦め近畿低山 10 選」	14
・ 第 37 回 OB 山行（丹沢山）報告	5	・ 現役部員の活動報告	16
・ 第 38 回 OB 山行（日光白根山）案内	6	・ OB 会費納入のお願い	18
・ 苗名小屋便り	7	・ 編集委員会から	19

YWVOB 会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男 (9 期)

今年の OB 総会を 10 月 26 日 (土) に常盤台キャンパスで、第 8 回 YNU-HCD に合わせて開催することになりました。同時開催は創部 50 周年を迎えた 2007 年から続けてきています。その第 8 回 YNU-HCD 実行委員長に YWVOB 会長が選ばれました。HCD の定義は「YNU-HCD は、同窓生、学生、教職員、本学に関係ある人々がキャンパスに集い、種々のイベントに参加することによって旧交を温め、また、学部、世代、属性の垣根を越えて親睦を深めるものです。この『繋がり』が YNU を支えていく礎になることを期待しています」であり、ワンゲル部・OB 会が従来以上に主体的に取り組み「ワンゲル部企画展」をイベントの一つにさせて頂き、その準備を進めています。OB 総会や YNU-HCD に今まで参加しなかった方々、できなかった方々、お誘い合いながら、緑濃き YNU 常盤台キャンパスにご参集をお願いします。

祝 富士山世界遺産登録 特集①



房総から (烏場山 山行) 2012.03



大山から 2013.01

2014年度 YWV OB 総会

日時： 10月26日(土) 9:00~11:00

場所： 横浜国立大学 常盤台キャンパス

理工学部講義棟 A106、108号室

議案： 活動報告、決算報告、予算案審議、新入会員承認等

当日は今年度もホームカミングデー開催日であり、YWV としても活動内容を周知すべく、別室で展示を行う予定です。また、総会終了後はホームカミングデーの交流会になだれ込み、円陣を組んでみはるかす合唱やエールを行う予定です。今まで非公認であった恒例?の みはるかす合唱やエールですが、今年は公認のプログラムとなりました。交流会参加についてはOB会より現金での補助があります。是非お越し下さい。

横浜国立大学ホームカミングデーの URL はこちら ⇒ <http://homecoming.ynu.ac.jp/index.html>

OB 会員の皆様、ホームページを見て交流会参加の手続きを進めて下さい。



1 ページの「会長ご挨拶」でも触れていますが、我がYWV OB 会 鈴木会長が今年のホームカミングデーの実行委員長をされております。OB 会員の皆様の多数のご参加をお待ちしております。

実行委員長挨拶

Welcome to YNU-HCD



今年のテーマは「YNUの学風、伝統を見つめる」で、メイン講演者は相澤益男先生(工学部1966年卒)です。先生は内閣府総合科学技術会議委員として日本の科学技術政策の舵取り役を務められ、更に東京工業大学学長、国立大学協会会長として大学改革を進めてこられました。大学においてグローバル化が進んでいる今、先生の広い視野に立ってのYNUの学風や伝統を見つめたご講演は多くの示唆が含まれていると思います。その他に、学風・伝統を象徴するYNUの4つの精神「実践性・先進性・開放性・国際性」を実感できるイベントを多く用意しています。大学教職員及びOB・OG・在学生・同窓生・サークル仲間・ご家族・ご友人を誘って頂き、多くの皆様方がYNU-HCDをお楽しみ下さい。YNU-HPも 逐次更新しますので是非ご覧下さい。

第8回YNU-HCD実行委員長・鈴木弥栄男(工学部1969年卒)

ご講演者・相澤先生のご紹介を本ウェブサイトにて掲載する際に、ご本人に未確認のまま掲載してしまったことを深くお詫び申し上げます。

(出典：横浜国立大学ホームカミングデー ホームページ)

■ 2013年 第2回役員会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

2013-4-13 (土) 14:00 から川崎市「てくのかわさき」にて第2回役員会が開催された。

【出席】 嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、山口(18)、石垣(20)、安武(20)、西田(20)、武藤(20)、横溝(21)、山崎(22)、小野(34)、親跡(34)
<現役>欠席 以上 16名

【内容】

1. 各委員会報告

①総務 (山川副委員長)

- ・ダイアゴナルキットをOB会の名簿管理に活用する活用案につき詳細説明があった。有効なツールであり、役員間でテスト使用して活用方法を検討する。
- ・終身会員の制度導入につき提案があり討議した。終身会費制度も含めて、今後検討する。

②OB小屋 (榎本委員長)

- ・今年は3回雪下ろし実施。
- ・現役の小屋活動促進を推進中。4~5月に現役が新人歓迎小屋合宿を計画中でありサポートしていく。

③編集 (石垣委員長)

- ・53号は発行済み。次回54号は9月発行の予定。

④OB山行 (山口委員長)

- ・次回5/18の丹沢山は約20人参加の予定。偵察実施。

⑤ホームページ (吉村委員長、鈴木副委員長、金田氏)

- ・2013年度活動計画と実績も適宜アップする設定実施 (OB会、シニアOB会、山行活動など)。
- ・60年当時から公式ワンダリング記録、写真アップ。期別に写真があれば金田氏に送付しアップ依頼。

⑥部史編纂 (嘉納委員長) :

- ・60周年記念の一環でデータベースの整理状況の報告があった。次回総会で状況報告。

⑦会計 (吉野会計幹事) :

- ・OB会入会当初10年間を除き、5年間会費未納入の場合は会報は送付しないこととしたい。
- ・YWW現役入部時にOB会自動入会も検討してはどうか。

⑧現役からの報告 (西田より)

- ・4~6月新人歓迎 (大山)、奥秩父計画。8月夏合宿は白馬を計画。

⑨その他 :

- ・鈴木会長 (次回HCD実行委員長) から協力要請あり。内容は役員に別途送付されるので各委員会で展開してゆく。HCDは10/26 (土) で決定。

2. 次回役員会予定： 2013年7月20日 (土) 14:00~

場所： てくのかわさき (溝の口)

以上

編集委員会からのお知らせ

OB会ホームページに掲載しています電子版の会報はカラーですが、印刷版では予算の都合上、特別号以外は白黒でした。この度、印刷所を変更することにより予算内で印刷版もカラーにすることができました。これを機会に表紙やタイトルなどをカラーにしました。これからもより良い会報を目指していきますので、今後ともご愛顧をよろしくお願いいたします。

■ 2013年 第3回役員会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

2013-7-20 (土) 14:00 から川崎市「てくのかわさき」にて第3回役員会が開催された。

【出席】 嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、山下(17)、小浜(17)、堀内(18)、山口(18)、安武(20)、武藤(20)、西田(20)、白木(21)、横溝(21)、山崎(22)、和多(28)、親跡(34)、小野(34)、<現役>古矢(56 主将) 以上 21名

【内容】

1. 各委員会報告

①総務 (横溝委員長、山川副委員長、武藤副委員長)

- ・ 現役の夏合宿壮行会を企画・・・8/3 (土) に実施する。
- ・ 名簿更新・・・名簿データの部分修正を行う。また名簿の更新 (修正部分) を総会前にメールで行う。
- ・ ダイアゴナルキットは任意活用し OB 会内で紹介する。今後、名簿管理や連絡ツール等へ活用検討。

②OB 小屋 (榎本委員長)

- ・ 7/13~15 で整備、不用品処分、除草など実施。床の補修は検討継続。
- ・ 今後の小屋整備、行事は 8/10~13、予備 9/14~16、きのこ採りほか 10/12~14、小屋閉め 11/2~4

③編集 (吉野、西田)

- ・ 第 54 号の原稿締切は 8/2、発行・発送 9/7。
- ・ プリントパック活用による会報の印刷費削減を行う (年約 6 万円の費用圧縮)。

④OB 山行 (山口委員長)

- ・ 次回山行は 10/19 日光白根。2014 年度山行計画案 : 1/18、5/17、10/18 で企画中。

⑤ホームページ (吉村委員長)

- ・ サーバ容量を倍増したので複数 HP 可能に。内容につきニーズ募集。
- ・ 最近 (7/19) HP アクセス数 360/日で多数。

⑥部史編纂 (嘉納委員長)

- ・ YWV 部室の史料スペース少なく、書類削減する。
- ・ HCD (10/26 ホームカミングデー) での YWV 企画展の写真パネル製作を検討中。

⑦会計 (吉野会計幹事)

- ・ 特記事項なし。

⑧現役からの報告 (56 期 古矢主将)

- ・ 部員数は 14 人 (1 年生 4、2 年生 6、4 年生 4)
- ・ 活動計画は 7/14~15 大菩薩峠、8/4~8 夏合宿①白馬岳、8/13~16 夏合宿②槍ヶ岳。

⑨OB 総会・・・10/26 (土) 9:00~11:00 (予定)

- ・ 今回も HCD 当日に開催。
- ・ 定例議題、審議事項に加え、一定の期以降について終身会費を納めることで終身会員になれる仕組みを導入する。

⑩HCD でのワングル企画展実施 (創部 55 周年ワングルの伝統紹介)

- ・ 鈴木会長 (HCD 実行委員長に選出) からワングル展実施の趣旨説明。YWVOB 会として、現役とも協力して、ワングル企画展を実施する。
- ・ テントなど山行道具やワングル活動の写真パネルの展示、スライド撮影などを企画中。8/31 に準備担当が集合し検討会を行う。
- ・ 必要な費用は特別準備金から拠出する (現役も同意)。

2. 次回役員会予定 : 2013 年 9 月 28 日 (土) 13:30~

場所 : ミューザ川崎 会議室 2

以上

■ 第37回OB山行（丹沢山）報告

OB 山行副委員長 小浜一好 (17 期)

日 程 : 2013 年 5 月 18 日 (土)

参加者 : 嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、早坂(8)、佐木(8)、山本(10)、安藤(11)、山川(12)、榎本(12)、小口(14)、
吉田(14)、白須(17)、小浜(17)、梅野(17)、壺井(18)、山口(18)、白木(21)、小野(34) 以上 18 名
(参考:偵察参加者 渡邊(17)、武藤(20)、親跡(34))

今年の OB 山行はたまたま、すべて百名山である。
1 月の筑波山、今回の丹沢山、10 月の日光白根山。山
行委員会としては、年間 1 回は百名山を計画したいと
考えている。

丹沢山へのルートは通常、表尾根など縦走コースが
メインだが、今回は塩水橋からの直登ルートを選択し
た。そのため、登山口までのアプローチは秦野駅から
マイクロバスをチャーターし、下山口の札掛に帰りの
足のマイカーをデポする段取りとした。安藤さんがシ
ニア海外ボランティアとして赴任されていたベトナム
から帰国されて久しぶりの参加となった。

9 時から登山開始、天王寺尾根のさほど急ではない道をひたすら登る。5 月の雑木林の緑が美しいが、眺望
はほとんどない。頂上直下の長い階段を息を切らしながら進み、丹沢山には 12 時 20 分到着。山頂では 19 期
の笛木さんがサプライズ登場。前日から塔ノ岳に登り、我々を迎えてくれたとのこと。その後は下山までご一
緒した。山頂で昼食休憩。3 月末の下見の際は寒くて頂上の山小屋に逃げ込んだが、今回は快適な気候でゆっ
くり食事と記念撮影。というわけで天気はまずまずであったが、眺望は尾根に出てもよくない中で、富士山が
薄く見えた。縦走路を進むと塔ノ岳は大賑わい、次々と新旧の山ガールや山ボーイたちが表尾根や大倉尾根か
ら到着してくる。それでも新大日から長尾尾根に下れば静かな丹沢を味わえた。広く長い尾根を皆でわいわい
と札掛に下ってみれば、ロングコースながらコースタイム通り歩いていた。(拍手)

今回は OB 山行の中でもハードな部類で体力は三ツ星を付けており、参加者数を心配したが、結果としてい
つもと変わらない参加者数であった。それにしても、1 期、2 期の大先輩たちがこのロングコースを軽々こな
すのには敬服、継続は力なのか、それとも持って生まれた体力なのか、これからリタイアを間近に迎える我々
世代にとって手本にすべき方々である。恒例の下山後のひとつ風呂は適当な温泉が見当たらず、次回のお楽し
みとなった。

その次回は 10 月 19 日、紅葉真っ盛り (予定) が魅力の秋の日光。標高は 2578m と高いが、ゴンドラ利用
で歩行時間の短縮も図ります。お誘い合わせの上、多くの方 (特に若い OB 世代) の参加をお願いします。参
加者数によっては再度バスのチャーターも考慮します。ではまた、日光でお会いしましょう。

丹沢山データ : 歩行距離 約 15km、高低差 約 1150m、行動時間 8 時間 (休憩含む)



■ 第38回OB山行（日光白根山）案内

OB 山行委員長 山口貢三（18期）

日光白根山は湯元温泉から登ったことがあるが、五色沼避難小屋一泊を要する健脚コースという記憶がある。今は群馬県側にゴンドラができたおかげで日帰りが可能な一般コースとして楽に登れる山になっている。

皇海山もそうだが、かつて栃木県から長いアプローチを経てのみ到達できた山が、群馬県側の開発によって日帰りできる簡単な山になったことは、寂しい気持ちもあるが、栃木県側から登るとなると相応の覚悟が要することを考えればOBとしてはやはり歓迎すべきであろう。10月を山行時期に選んだ理由は紅葉の期待も一つだが、偵察、本番に雪がない時期であることも大きな理由である。短いコースとはいえ2500mを超える標高が雪山シーズンでは依然として厳しい山となることを忘れてはならない。防寒、防風を考慮した服装で出かけよう。

地図を見れば六地藏、大日如来、弥陀ヶ池、座禅山、血ノ池地獄などの地名があるように信仰登山の歴史があり、これらを巡るコースとしての興味も湧く。もちろん素晴らしい紅葉も大いに期待してもらいたい。初参加の方、お久しぶりの方、大歓迎！多くの方の参加をお待ちする。

〔日程〕 2013年10月19日（土）

〔行先〕 日光白根山（にっこうしらねさん・2578m）

〔地図〕 昭文社山と高原地図 13 日光白根山・男体山 2013

〔集合・交通〕 横浜、東京等からマイカーに分乗して登山口に向かう予定です。

横浜近辺5時頃→東京近辺6時頃→沼田駅8時（電車7:55着）→丸沼高原

マイカー同乗希望者は、乗車希望場所も連絡ください。ただしマイカーのルートによってはご希望に沿えない場合もありますので、別途集合駅を調整させていただきます。

〔行程〕 10:00 丸沼高原ゴンドラ駅→10:20 山頂駅（標高2000m）10:30→11:10 七色平→12:50

日光白根山 13:20→14:30 七色平分岐→15:00 六地藏分岐→15:20 山頂駅→15:40 丸沼高原

（歩行時間3時間50分） 体★★ 技・危★

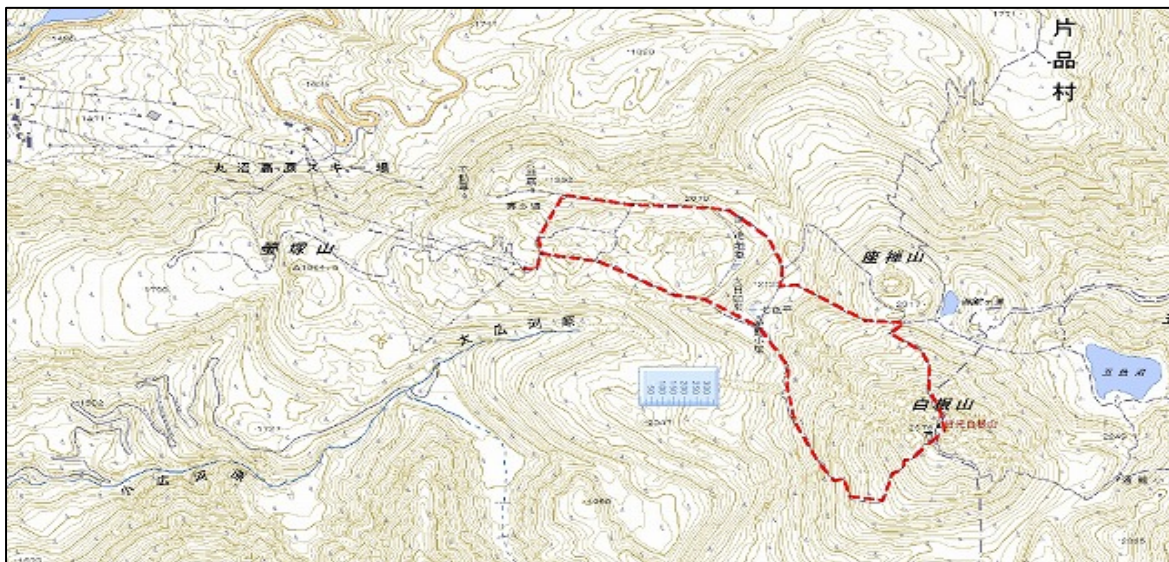
〔参加費〕 500円＋ゴンドラ1,900円（交通費別途、目安：マイカー1台当たり1万5千円÷乗車人数）

〔持ち物〕 昼食、水、おやつ、雨具、防寒具

〔温泉〕 白根温泉薬師の湯（700円）下山後に立ち寄り汗を流します。

〔申込み〕 参加ご希望の方は9月23日までに下記のいずれかにご連絡ください。マイカーを出していただける方はその旨お申し出ください。（配車を調整して10月6日頃までに参加者へ連絡予定）
小浜一好（17期） 山口貢三（18期） 小野恵美子（34期）

メール：sanko-ywob@yahoogroups.jp



（出典：ウォッチーズ12500）

■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 榎本吉夫 (12 期)



6月の小屋開けと山菜採り参加者

高須さん、8 期佐木さん、池原さんと友人、11 期安藤さん、14 期小口さん、現役齋藤さん、谷口さん、聖マリ大井さんと榎本の 12 名でした。1 日の山菜採りは、ワラビや根曲がり竹などを採って、下準備をしているうち



いつもの風景ですが、まずは乾杯！



語らう、現役齋藤さん、谷口さん&聖マリ 大井さん

5 月ゴールデンウィークは、後半の 4 日 (土)、5 日 (日) に 30 期笹倉さん、現役の 54 期谷口さん、花井さん、56 期古矢さん (主将) と榎本が小屋入りして、プレ小屋開け作業をしました。残雪下の井戸探しは、現役 3 名が 2 回目で掘り当て、水道が開通、翌週の現役小屋入りに間に合わせました。笹倉さんは造林小屋の屋根・壁のペンキ塗り、古矢さんは次週のため、笹ヶ峰偵察に行きました。5 月 11 日 (土)、12 日 (日) は、現役 5 名 (古矢、畑、中山、林、百合野) が OB の笹倉車、松本 (29 期) 車に分乗して小屋入りしましたが、詳しくは現役の報告を参照願います。6 月 1 日 (土)、2 日 (日) には、小屋開けと山菜採り、小屋整備、京大ヒュッテ野外コンサートなどを行いました。参加者は、5 期諸角夫妻、

以下に、6 月の行事の様子を写真で紹介します。



今日の収穫！山菜を前に、これから夕食！



8 期池原さんご友人のホルン演奏！



最後の締め焼きそばを現役が担当！



バイオリンとピアノの響きを楽しむ！

6月下旬に、笹倉さん、現役の畑さんが小屋入りし、畑さんが畑造りに精を出したと聞いています。7月13日(土)～15日(月)に、佐木さん、池原さん、安藤さん、松本さん、榎本が小屋入りし、小屋周辺と林道までの道の生い茂った草刈り、枝切りを実施しました。天候が心配でしたが、なんとか実施できました。佐木さん、池原さんの8期は、10月7日(月)、8日(火)に小屋で8期会を行う予定で、夫婦同伴原則?で20数名の参加が見込まれるとのこと。その準備もあって、小屋の備品チェック、不足分、必要部材等の検討しておりました。それを踏まえた整備を8月のお盆週間に実施する予定です。



ハウバの花

2日はそれぞれの行動になりました。富士見平まで行った方もいました。笹ヶ峰牧場は牛が放牧され、ハウバの花が咲いていました。京大ヒュッテの野外コンサート、そのあとバーベキューパーティーは、国大から3名参加しました。素敵なコンサートでした。春早い妙高を満喫されたと思います。



京大ヒュッテに集う、コンサート参加者



コンサート後のバーベキューパーティー

<後の山小屋行事予定>

8月10日(土)～18日(日) 旧盆ウィークに、夏の小屋行事(小屋整備&小屋基点の散策・山行他)、参加者の予定合わせて、分散実施予定

(9月の3連休14日(土)～16日(月)は、必要に応じて計画!)

10月12日(土)～14日(月) 秋の小屋行事(きのこ採り&紅葉散策、小屋整備)

11月 2日(土)～ 4日(月) 小屋閉め&晩秋の散策

(追伸)

床下の湿気の件ですが、6月3日の時点では全く結露はなかったので、昨年は何だっただろうと思っていましたが、7月14、15日の草刈り時には、みごと?結露しておりました。どうやら梅雨時期に結露するようです。取りあえず点検口に網を張って開放しておきました。強制送風・排気の本格対応を検討します。

自由投稿「平和という夢に向かって」

志賀 圭 (44期)

YWVOB会の皆様、すっかりとご無沙汰しております。44期の志賀です。私は、現在フィリピンにて大学院生をしております。国連平和大学というのをご存知でしょうか、United Nations Mandated の大学院で Costa Rica に本部があり、世界中に Satellite Campus があります。フィリピンは、そのうちの一つです。フィリピンとコスタリカのデュアル・キャンパスプログラムで、これからおよそ2年間、平和構築について研究をします。本プログラムは、日本財団からの全額奨学金でアジア各国から平和構築の専門家を育成する目的で実務経験のある人材がそろっています。私は、青年海外協力隊でバングラデシュの農村開発、ならびにガバナンス分野にて2年間働いたのち、国連ボランティアとして、再びバングラデシュの UNHCR において、ロヒンギャと呼ばれるミャンマーのラカイン州からの難民支援に従事していました。このロヒンギャ難民問題は20年以上続く長いものですが、世界中から忘れられていました。残念なことに、民主化の進むミャンマーで再び排斥のターゲットにされ昨年から再度、世界中のメディアにて報道されています。日本では、東日本大震災の時に、日本に居るロヒンギャ難民の団体が罹災地域に駆けつけてボランティア活動に従事したことが報道されて記憶に残っている方も多いかもしれません。

さて、話を元に戻しますが、この国連平和大学のプログラムでは、私のように人道支援、開発援助に携わっていた人間、また NGO での経験のある人、軍事関連のバックグラウンドを持つ方、人権支援団体、弁護士、ジェンダーの専門家またジャーナリストなど幅の広い分野からプロフェッショナルが集まっています。夏からは、コスタリカの本校にて、世界中からの人間と共に、様々な専攻に分かれて、平和というキーワードを中心に研究していきます。終了後は、再び、世界中の現場に散って平和構築と言う大きな夢に向かって様々な分野からアプローチすることになります。

私は、バングラデシュでの経験から、開発支援と人道支援の隙間に大きな疑問を感じています。この2つの支援がシームレスに緊急での人道支援、そして自立復興、そして発展を達成するための開発支援という形で繋がっていくことが必要だと感じていますが、現実世界では、なかなかそうはいきません。また、バングラデシュのように特定の地域が人道支援分野として開発から取り残され、その為に国全体で見たときに大きな歪みが生まれていることも、新たな紛争の火種となり危険です。平和構築とは、平和を築くことですが、その為には、紛争を未然に防ぐ、紛争予防という考えも重要になってきます。グローバル社会においてリージョナルな問題へ国際社会が与えるインパクト、またその逆にリージョナルな問題が国際社会に与えるインパクトは、我々の想像を超えるものになっています。また、そのスピードも、ものすごい速さになっています。私は、YWVOB/OG 諸兄の築かれてきた日本の発展は、グローバル社会の恩恵の上に立っていると思います。また、今、問題となっている日本社会の大きな歪みも、世界に大きな影響を与えるものだと考えています。日本人として、アジア、そして世界の平和構築に貢献できる人材になれるように、しばらくフィールドをキャンパスへと移して努力したいと思います。



自由投稿「イギリス湖水地方を歩く」

太田繁信 (13期)

〇はじめに

若いころよく読んだイギリスのミステリーにはしばしば「牧草地のフットパスを抜けてくる」登場人物が出てきました。このフットパス（歩道）というのは、たとえそこが私有地であっても通行する権利が認められていて、所有者といえどもその権利を妨げることができない道で、イギリスにはそれこそ網の目のように存在し、それを利用することで長距離の「徒歩旅行」を行うことが一つの伝統のようなもの（実際、今回われわれ夫婦が歩いたのは80km程度ですが、数百kmにわたる旅行を行っている夫婦に2組出会いました）ということを知りました。

こういう旅をしてみたい、という希望は前々からありましたが、退職した今年ようやく実現することができました。山歩きをあまりしたことがない嫁さんも一緒ですので、距離も短く楽な道のりが多い「初級コース」を選びましたが、風光明媚な湖水地方国立公園の自然の中を歩く旅を、英語もさして得意とは言えない2人だけで行うことができましたので皆さんの参考になれば幸いです。

〇旅の内容

第1日 (6月6日)

ロンドンを3日間観光した後、湖水地方に向かいました。湖水地方まではユーストン (Euston) 駅から鉄道で玄関口のウィンダミア (Windermere) まで向かいます。日本にいるうちに予約をすればもっと安くなったようですが、切符の受け取りにいまひとつ自信が持てず、前日に駅の窓口で購入したため往復で一人194ポンドかかりました。ただ、列車は快適で車窓風景をゆったりと楽しむことができました。

ウィンダミアから宿泊する B&B (朝食付きの「民宿」) のあるボウネス (Bowness) まではバス、バス停から B&B まで上り坂が続き、さらに道から階段を数十段登らなければならなかったのが荷物を抱えての移動はちょっと疲れましたが、荷物を自分で運ぶのはここまで、あとはイギリスの旅行社 (後述) との契約で朝に玄関口に荷物を置いて出発すると毎回、次の宿泊先まで届けてくれることになっています。

今日の日程はこれで終わりですが、まったく歩かないのもなんだと思い宿の近くの小さな山 (Brant Fell 134m) に登りました。急坂の舗装道路が終わるとそこがフットパスの入り口で早速ゲートがありました。いくつかゲートを抜けた後頂上までは一面の牧草地になっており羊、ヤギがたくさんいます。こちらが近づけば向こうの方からよけてくれるのでその点はよいのですが、よく下を見て歩かないと「落とし物」が多いので気をつけないといけません。

頂上からはウィンダミア湖を中心にすばらしい眺望が得られます。日本の山だと午後5時近くといえはこの時期でもそろそろ日没を気にしなければいけない時間ですが、緯度が高いため日射しもまだ強く、まったく心配がいません (実際日没はサマータイムということもあって10時ごろ)。たっぷり眺めを楽しんでから宿に戻りました。

第2日 (6月7日)

今日から本格的な歩きが始まります。B&Bの朝食は8時半から。日本の感覚では少し遅すぎる時刻ですが、前述のように日が長いと、行程も短いので気にはなりません。同宿のイギリス人夫婦とつたない英語で会話を交わしながらのイギリス式の朝食を楽しんだ後、10時少し前に宿を出ました。

フェリーでウィンダミア湖の対岸に渡り、少し舗装道路を歩いたのちに、いよいよフットパスに入りました。牧草地や林の中の道には日本のキンポウゲのよう



な黄色い花をはじめとして、赤、紫、白などたくさんの花が咲き乱れています。やはり6月というこの時期が良かったのでしょうか。嫁さんはもう大喜びで写真を撮りまくりでした。また、ロンドンの公園でもそうでしたが、ところどころにオークをはじめとする大木が枝を広げていたのが印象に残りました。

1時間弱でまた車道に出て、絵本「ピーターラビット」の作者の家があるヒルトップに着きます。そこで日本からきていた2人の女性に会いました。彼女たちはバスで訪れていて「これから1週間歩くんです」というとさすがに驚いた様子。

そこからまた車道を離れ今度は自転車や場合によっては車も通行を許される Bridleway (直訳すれば荷馬車道？、日本の林道、農道と似ています) に入りました。サイクリストには出会いましたが車には出会わず、ここでのんびりと周りの風景を楽しみながら歩くことができました。

途中、ナショナルトラストが管理する小さな美しい湖のそばをいくつか通ります。地図では、これらの小さな湖はlakeではなくtarnと記されていました。中でも一番美しい



湖はlakeではなくtarnと記されていました。中でも一番美しいモス・エクレス湖 (Moss Eccles Tarn) の湖畔で昼食休憩をとりました。今回の旅行では少しでも安く上げるため、外食はほとんどマーケットで仕入れたパンや果物など。パンは日本の方が断然よい、と思いましたが果物 (中でもリンゴ) はおいしかったです。

しばらく Bridleway をたどったのち、ふたたびフットパスに入り、ラッターバロウ (Latterbarrow) という小さな丘 (244m) に登ります。頂上には大きなケルンが積んであり文字通り360度の大展望、この高度でこれだけの雄大な眺めが得られる場所とは思っていなかった (地図には Viewpoint という記号が確かにありました) だけに感激でした。そこからは今夜の宿のホークスヘッド (Hawkshead) までもう30分程度。2時少し過ぎにはB&Bに着いてしまいました。この日のB&Bはちょっと古い家ですが、部屋も広く何よりシャワーだけでなく浴槽もついていたのが (イギリスに着いてからずっとシャワーだけだったので) 嬉しい気持ちになりました。

第3日 (6月8日)

この日も朝食では同宿のドイツ人夫婦 (シュツットガルトに住む) と会話。われわれと同じように徒歩旅行をしているのですが、彼らは大きなザックをかついでの旅、この旅では彼らの他にもイギリスの西海岸から東海岸まで横断 (Coast to Coast という長距離歩道がある) している夫婦などにも出会いました。

昨日と同じく10時少し前に出発。今日のコースの始まりは教会、実は教会の入り口にはそこがフットパスのコースという表示がなく昨日のうちに下見をしておいたのが正解でした。教会の中にも入ることができ、ステンドグラスなどの美しさにはやはり感動しました。教会の敷地を過ぎるとそこからは牧草地がずっと続き、晴天ということもあり最高の気分です (糞に気をつけないといけません)。牧草地を区切るのには石垣。舞台はアメリカですが映画「ショーシャンクの空に」でレッドがアンディからの贈り物を探しに牧草地を訪ねるシーン、あれに出てくる石垣を思い出します。

いったん、舗装道路に出ますが、すぐに Bridleway に入り Tarn Haw という湖をめざします。この Tarn Haw は昨日の湖以上に景色が素晴らしいのですが、駐車場が近くにあつてかなり観光客も多くそれほど長居をする気分にはなりません。その駐車場からはまたフットパスに入ります。この部分は「Cambria Way」と呼ぶ湖水地方を南北に縦断する長距離歩道で、ここもまた気分のいいところ。緩やかに下つて今日の宿泊地 コニストン (Conniston) に向かいました。この日も楽な行程でB&B (ただ、感じとしてはビジネスホテルに近い) には3時前に到着。湖畔の散歩などを楽しみました。

第4日 (6月9日)

このコニストンでは2泊、最初計画を立てた時嫁さんが「私毎日なんて歩くのは自信がないわ」といったので毎日宿泊地が違う5日コースではなく、休養日にすることもできる1週間コースにしたためです。

でも、素晴らしい景色の連続に疲れも吹き飛ばすのか、この日も「宿で休んでいるのはもったいない」と二人で歩くことにしました。いくつかコースが考えられ単独行動の場合はオールドマン (Oldman, 803m) 登山



も考えていましたが、気分の良かった Cambrian Way の続きを南へ行くことにしました。平日だとバスがあつて片道だけでよいのですが、運悪く日曜はバスの運行がありません。タクシーではいくらかかるか考えただけでも恐ろしいので、タイムリミットを決めて同じ道に戻ってくることにしました。

コースはしばらくコニストン湖の西岸沿いに、湖を眺めながら草地や林の中をたどります。日曜ということもあつて途中、にぎやかな中学生の集団にも会いました。

しばらくしてから女性 2 人とあつたのですが、「少し前に生徒たちと会わなかった？」どうやら引率の教師。でもあわてている様子は全くありませんでした。2 時間

ばかり歩いたところで道は湖岸を離れ、谷間の道となります。と言っても谷は広くまた大きな木もなく開けているので日本で考える「谷間」とは大違いです。ここも気分がいいのですが、あまり進んでしまうと戻るのが大変なので 30 分ほどで引き返さなければならなかったのが残念でした。



第 5 日 (6 月 10 日)

今日は、コニストンから北へ、谷をたどりブレア湖 (Blea Tarn) のそばで峠 (といっても標高 224m で緩やかに上がっていつの間にか着くという感じ) を越えて、宿泊地に向かうコース、何といても「湖水地方」なので、毎日見どころとして湖が登場します。

今までとは少しコースの状況が違ってきて、牧草地はあまり通らず、森林の中や谷間の時折車が通る道が多くなりました (特にブレア湖の近くはかなり交通量が多くちょっと神経を使いました)。その代わりに、コースの周囲に高い山 (といっても 1000m 未満なんですが) が迫り、迫力のある眺めが出てきました。そして、峠を越えるとそこには教科書のイラスト通りの U 字谷が目飛び込んできました。長年授業で教えていながら本物を見るのは初めて、やはり感動です。

峠からは少し急な坂を下り、B&B へ。今までは町 (村) の中でしたが、今日は近くにホテルがあるとはいえ、その名も Millbeck Farm という大きな農家。家の周囲はもちろん牧草地が広がり、さらに裏口 (?) から入ったため、最初嫁さんは「こんなとこ泊まれないんじゃないの？」と思ったようでした。もちろん中に入れば部屋は綺麗で、主人夫婦も気さくな方たち。同宿の夫婦はコニストンで会ったこちらはケルンに住むドイツ人夫婦、会ったとたん、向こうの方から「コニストンでご一緒でしたね」と話しかけてくれ、香川をはじめとしてサッカーの話などをすることができました (実際のところは相手の話の内容を理解するのに悪戦苦闘でしたが)。

こちらの夫婦はやはり大きなザックで Cambria Way の完全踏破をしている途中、ちょっとうらやましくなりました。

第 6 日 (6 月 11 日)

最初良かった天気も、昨日あたりから下り坂。今日は朝から雨模様です。ただ、それほど強い雨ではなくさらに雨具をつけても湿度が低いので蒸れる感じは全くなく、快適に歩けました。

今日の前半はまた Cambrian Way。川沿いに下っていくコースで途中の湖 (Elter Water) には白鳥もいてのどかな光景が続きます。古い石造りの橋 (Skelwich Bridge) のたもとでこのコースと別れ、今度はグラスミア (Grasmere) へ向けての峠道。途中に美しい小さな湖 (Loughrigg Tarn) があるのも、峠道といっても谷が広く明るい開けた道であることは昨日と全く同じです。

峠からはグラスミアの谷と 2 つの湖 (Grasmere Lake と Rydal Water) を見下ろしながら緩やかに斜面を

下る気持ちのいい箇所では Loughrigg Terrace と呼ばれ、今回のコースで一番高い山(といっても 334m ですが) (Loughrigg Fell) への登山道が分かれています。

やはりひとつくらい山らしい山に登っておきたいということで、物足りない高さではありますが下で嫁さんに待ってもらい登ってきました。眺めは日本アルプスと比べてもそうひけは取りません。やはり、氷河地形というのは迫力があります。頂上には三角点ともなっているケルンがあるだけ。標識のたぐいは一切ありません。これはこの国立公園の方針なのだそうで事前に旅行社から受け取った案内にも「標識 (Waymark, Signpost) は 300m 以上の土地には一切ありませんから注意」とありました(そのかわり、平地や丘陵部ではフットパスの入り口や分岐には必ずと言っていいほど標識があります)。幸いこの日は雨模様といっても視界は利きますので迷う心配はありませんでしたが、霧にまかれた場合は厳しいな、と感じました。

Loughrigg Terrace を下るとそこは観光客も多いグラスミアの付近、ぐっと人も多くなり日本のツアーと思われる団体にも出会います。宿の B&B は中心部から少し離れたところ、宿帳を見ると我々は 8 年ぶりの日本人客でした。

第 7 日 (6 月 12 日)

この旅 2 回目の連泊の日、昨日に続き朝から雨(しかも少し強い)ということでいくつか考えられるコースの中で 2 つの湖をめぐる平地の多いコースにしました。ただ、昨日のところで書いたとおり、雨具をつければ大した影響はなく、さらに時間が経つにつれて雨はやみ、午後には一時日もさす天気となりました。

2 つの湖をめぐるコースはやはり一般の観光客も多く、午後は日も差したことから山の中腹にある湖 (Alcock Tarn) を目指しました。ただ、想像以上に登りが続き、嫁さんがつらそうな表情をみせたことから途中で退却、旅行社の案内にはない下りのフットパスに入りました。ただ、このフットパス、下っていくとあるホテルの敷地に出るのですが、何とそのゲートには鍵が。最初に書いたとおり「私有地の所有者といえども歩く権利を阻害してはならない」はずですが、高級ホテルからするとハイカーが敷地内に入るのを好ましく思っていないのでしょうか。一時迷いましたが、ここまで来て戻ることは考えられないのでゲートを乗り越え敷地内に。文句を言われないうちにさっさと敷地外に出ましたが、案内に出てなかったのはこのせいなのか、と思いました。

第 8 日 (6 月 13 日)

たっぷり楽しんだ「徒歩旅行」も最終日、この日は出発地のウィンダミアまでバスで出て、行きと同じ鉄道でロンドンに戻るだけでした。

○終わりに

この徒歩旅行ですが、文中で触れたイギリスの旅行社 (Discerning Travellers Limited) の存在が可能にしてくれたようなものです。この旅行社が提供しているサービスは「Individual Self-Guided Walking Tours」というもので、私はその中の「湖水地方 7 日間」(1 人 490 ポンド=契約当時のレートで約 8 万円) を申し込みました。そうすると①7 泊(連泊が 2 回あるので 5 か所)の B&B の予約をしてくれ (B&B は旅行社が契約しているいくつかの中から適当に選んでいるようだ) ②コースの 2 万 5 千分の 1 地形図のカラーコピー(推奨コース、見どころ、B&B の位置などが記されている)と 60 ページ以上に及ぶ詳細な案内(コースガイドの他、食事、トイレ、歩けなくなったときのバス、タクシー、ATM などの案内も含む)が航空便で 1 月ばかり前に送られてくる。さらに大きいのが前に書いた③荷物を次の宿泊地まで輸送してくれる(地元のタクシーと契約している)のでデイバックだけで歩ける、というわけです。これも文中に書いたとおり、山以外の地域では標識が整備されていますから地図読みがある程度できる人ならコースガイドなしでも地形図を頼りに歩けます(イギリスの地形図にはフットパスが緑色で明示されています)。事実、コースガイドの方はほとんど使わずじまい(歩いた後確認の意味で読むくらい)で歩くことができました。

そして歩く時期としてはやはり 6 月が良いと思いました(花がたくさん見られ、日も長く余裕がある、ゴールデンウィーク・夏休みを外れているので冬ほどではないが航空運賃が安い)。文中にも書いたとおり途中で多くの「徒歩旅行者」(ほとんどは夫婦づれ、高齢者が多い)と出会いましたが、皆にこやかに挨拶 (Good Morning, Hello, etc) を返してくれます。その中に同じ日本人が一人もいなかったことがある意味では不思議に思えた程でした。

自由投稿「プチヤマレコ・私のお薦め近畿低山 10 選」

西田雅典 (20 期)

近畿は大阪中心部から約 1 時間以内で行ける手軽で歴史溢れる名山が多数あります。2010 年から 2013 年の間に訪れたうち、お薦めの山を下記で紹介します。基本は軽登山なので、日頃運動不足で体力に若干不安がある中年層の会員の方にはウツツケです。



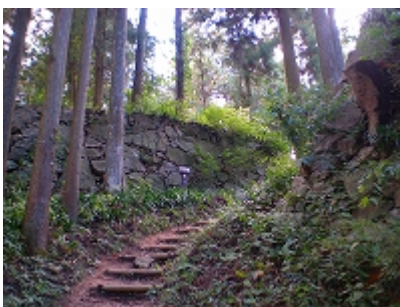
① 二上山 (にじょうざん 517m、奈良県葛城市、2010/9/25)

最寄の近鉄南大阪線二上山駅から標高差 438m、日本最古の国道竹内街道に囲まれた双耳峰で河内平野の展望よし。聖徳太子開拓の岩屋道を下り、曼荼羅など文化財等を残し、奈良時代以来の三重塔もある立派な當麻寺(たいまでら)まで 3 時間。駅前菓子屋の中将餅(よもぎ餅)は美味です。



② 金剛山 (葛木岳 1125m、大阪府千早赤坂村、2010/10/17)

最寄の近鉄南大阪線富田林(とんだばやし)駅から登山口までバスで高低差 615m (ロープウェイで 400m 短縮可)、大阪府最高峰。行程約 3 時間。10 月中旬の富田林の地車(だんじり)祭りは、岸和田、泉大津のメジャーだんじりより規模は小さいがホノボノしていて必見です。



③ 高取山 (584m、奈良県高取町、2010/11/3)

近鉄南大阪線壺坂山駅から土佐街道を歩き高低差 464m、吉野山など展望よく、立派で大きな石垣の山頂、高取城跡まで 90 分。南北朝土豪越智氏築城、豊臣秀長家臣本田氏と江戸時代譜代大名植村氏が改修。下山途中、壺坂寺は盲目の沢市と恋女房お里との物語「壺坂壺験記」で有名で文楽、歌舞伎の演目です(両方見ましたが泣かせます)。手焼き卵せんべい「め」は美味。行程約 3 時間です。



④ 須磨アルプス (横尾山 312m、神戸市、2010/11/21)

六甲連山西端に位置し、山陽電鉄須磨浦公園駅から 3200 本の桜名所、大阪の米相場を姫路に伝えた旗振山、義経一の谷合戦地を越えて、ポートアイランド造成で削られた高倉台から岩場の横尾山へ。低山ながらアルペンムード満点。結構キツイ 4 時間行程です。



⑤ 曾爾高原 (そにこうげん 亀山峠 810m、奈良県曾爾村、2011/6/25)

近鉄大阪線名張駅からバスで 50 分、三重県津市側からの約 2 時間の登りは疲労が溜りますが、亀山峠に着き奈良側斜面のホントに美しい景色を見た瞬間に解消します。秋のススキは圧巻とのことです。下山途中は曾爾高原温泉お亀の湯に浸かり、ビールで乾杯。



⑥ 竹田城 (虎臥山 353m、兵庫県朝来市、2012/9/16)

1431年、山名氏により築城し最後の城主の赤松氏は関が原で西軍につき1600年に廃城。JR 播但線竹田駅前から約1時間で「天空の城」「日本のマチュピチュ」の異名をもつピークに。ちょっとビックリです。駅東側へ40分の立雲峡から見る竹田城全景も神秘的。雲海に浮ぶタイミングがお薦め。豊岡市出石町の出石(いずし)皿そばはお試しあれ。



⑦ 葛城山 (960m、奈良県御所市、2012/5/19)

5月のツツジの時期がお薦め。山全体赤く染まる絶景です。近鉄南大阪線御所駅から約40分でロープウェイ駅まで歩く(この時期は車大渋滞でバスは無理)。標高差660m、1時間半の急登ですが、ロープウェイもあります。行程約3時間。



⑧ 伊吹山 (1,377m、滋賀県米原市、2012/10/16)

JR 京都線近江長岡駅から3合目を経てピークまで約2時間(3合目までのゴンドラは休止)。5合目からトリカブトなどお花畑を見ながらの急登。山頂には日本武尊像、茶店があり、琵琶湖、鈴鹿など絶景。往路を一気に三宮神社まで2時間下ります。長浜に昔お世話になったホワイト餃子(茶真)があります(30分50個無料サービス無し)。4月上旬の曳山祭(豪華な山車舞台で子供が歌舞伎を舞う)は行きたい。



⑨ 熊野古道 (682m、和歌山県田辺市、2013/3/9)

JR 阪和線紀伊田辺駅から龍神バスで2年前の台風12号の傷跡に目を取られながら栗栖川下車。多数ある古道のうち中辺路(なかへち)ルートで高原熊野神社、大門王子、十丈王子、大阪本王子など京都から熊野三山(本宮大社、那智大社、速玉大社)にいたる九十九王子(小さな社)の一部をお参りし4時間ほどで古道のシンボル牛馬童子、近露王子まで歩く。外人さんバックパッカーにも会う。おばあちゃんが頑張っている湯の峰温泉、ペンション「あしたの森」泊、夕食の熊野和牛ステーキは最高です。翌日はバスをフル活用し、本宮大社、速玉大社、那智大社にお参りし、大阪から1泊2日で広くて奥深い熊野古道・三山を味わえました。



⑩ 蘇鉄山 (日本最低山 6.84m、大阪府堺市、2013/3/24)

南海本線堺駅から徒歩10分大浜公園内にあり、一等三角点の山としては日本最低山。天保山は二等三角点。神明神社で蘇鉄山登山証明を洒落で発行してくれます。堺駅周辺は漁業の町でチョット一杯すし屋がお薦め、中百舌鳥(なかもず)の仁徳天皇陵に足を伸ばすのも一考です。

■ 現役部員の活動紹介

主将 古矢紘基 (56期)

今年度から主将を務めさせていただいている56期の古矢と申します。今回は現役部員の活動紹介として、新人歓迎から夏トレーニングまでの登山の様子と、このOB会報が出る頃には無事終わることができていると思いますが、白馬岳と槍ヶ岳の2回の夏合宿の計画について紹介していきたいと思います。また今回はカラー印刷ということなので、写真を中心に紹介させていただきます。

新歓登山 (場所：大山)



左の写真は、新入生がよく写っているということで採用しました。

前列左から市川 (1年)、井畑 (1年)、百合野 (1年)、林 (2年) です (彼らと後の写真に出てくるとは思いますが、磯田君が新しく入ってきた YWV のメンバーです)。

この新歓では特に天候が良く、新入生全員、この新歓を楽しんでくれました。

第1回新練登山 (場所：雲取山)



右から2番目の緑のTシャツを着ている人が、磯田 (1年) です。

この新練も大山登山と同じく、終始天候の良い状態が続いておりました。そのためこの写真の右端に写っている富士山だけでなく、南アルプスもとてもきれいに見ることができました。

また雲取山に関しては、去年新人として登り、そこでヘトヘトになったことが、自分としては良い経験となったことから選びました。今回の登山では、新練ということもあって、新入生をヘトヘトにさせてやろうという意図があったのですが、先輩に全く頼らず登りきりました (去年の自分は1日目のお昼でギブアップし、先輩に一部荷物を持ってもらいました)。

先輩に頼らず登っていった新入生に対して頼もしくも頼ってくれないさみしさを感じた登山でありました。

第2回新練登山（場所：南八ヶ岳）



左の写真は市川君と赤岳です。

この登山は、初日、美濃戸口から赤岳鉱泉に入り、二日目に赤岳鉱泉から硫黄岳、横岳、赤岳を通り、行者小屋に下りるというルートです。残念ながら赤岳ではガスによって展望はほとんどなかったのですが、硫黄岳での展望は抜群でした。また硫黄岳への登りの途中、カモシカに遭遇することができました。

夏トレーニング登山（場所：乾徳山、大菩薩嶺）



左の写真は乾徳山の鎖場の写真です。

この登山では、初日に乾徳山をピストンし、福ちゃん荘のテント場で泊り、2日目に大菩薩嶺を登るという行程でした。

期末試験の2週間前ということもあってか、参加人数はあまり多くなく、少しさみしい登山でした。

この登山で一番印象に残っていることは、登山そのものよりも下山後の町の暑さでした。この登山は海の日3連休の時に行ったのですが、その時の日本は猛暑日の連続記録を更新するかしないかと騒がれていた時期であり、特に下山地である塩山は猛暑に関して、連日取材が来るほど暑い場所でした。

最後に夏合宿に関して紹介をします。まず8月4日から8日には白馬岳に行きます。コースは、猿倉から白馬鍾温泉へ行き、そこで1泊。2日目は、鍾温泉から鍾ヶ岳、杓子岳を通過し、白馬岳頂上宿舎のテント場で1泊します。3日目は、白馬岳、雪倉岳を通り、朝日小屋へ。4日目は朝日小屋から朝日岳を通り、白馬蓮華温泉へと下山します。この登山では、雪の織り成す白馬の特徴的な自然を味わってこよとおもいます。

次に8月13日から16日で槍ヶ岳に行きます。コースは、上高地からのルートで初日に槍沢のキャンプ地まで行き、2日目に槍沢キャンプ場から南岳の方へ行き、槍ヶ岳山荘に向かいます。実はこの南岳からのルートは、3年前台風で途中引き返すことになってしまい、その時に行くことができなかったルートであり、この登山は3年前に行けなかった登山の続きという意味合いも持っています。3日目は、早朝に槍ヶ岳に登り、大天荘に向かい、そこで1泊します。そして4日目に大天井岳から燕岳行き、中房温泉に下山します。この登山は3年前の雪辱戦ではありますが、無理はせずに安全を心掛けて行こうと思っています。

■ OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎 (2期)

OB会報第54号に同封しました払込取扱票は、2014年度年会費等をお振込いただく用紙です。
ゆうちょ銀行の各店舗窓口・ATMからお振込みください。
払込手数料は3万円未満の場合、窓口120円、ATM80円です。

- ・年会費：2,000円 (2014年度 (2013年10月～2014年9月)の年会費)
(払込取扱票に「〇〇年度までの会費は納入済みです」という表示がある人は納入不要です)
- ・前納会費：10,000円 (2014年度～2019年度の6年間の年会費前納分)
- ・寄付金：(一般、小屋) どちらかを○で囲んで
- ・最新名簿代金：500円 (郵送希望者のみ)

払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込ください。

口座番号：00290-3-2419
加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

★他の金融機関からの振込み

他の金融機関からも振り込むことができます。その場合、預金種目、口座番号は下記のようになります。
手数料は各金融機関、振込み方式によって異なりますが、3万円未満の場合は210～630円です。

銀行名：ゆうちょ銀行 (9900)
店番：029
店名：〇二九店 (ゼロニキュウ店)
預金種目：当座
口座番号：0002419
カナ氏名：ヨコハマコクリツダイガクワンダーフォーゲルオービー

祝 富士山世界遺産登録 特集②



高川山から 2008.12



御殿場新五合目登山口から 2013.07

今年上半期の話題と言えば、やはり富士山の世界文化遺産登録でしょう。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産委員会で正式に承認され、今年 6 月 26 日に登録されました。何故、自然遺産ではなく文化遺産なのでしょう。ゴミ問題等があるので自然遺産に登録されなかった、ということも聞きますが、それは本当でしょうか。疑問を解決すべく色々調べてみました。結果、以下の理由で自然遺産に登録されなかった、というのが妥当の線だと思います。

- ・富士山のような円錐形の独立峰は世界に多々ある。
- ・取り巻く自然、標高、火山などを考えても、世界レベルでは際立った特徴がない。
- ・人間の手で改変されており、自然の雄大さが損なわれている。

富士山は日本人には特別な存在ですが、世界から見たら普通の山ですので、自然遺産に登録されなかったのは仕方がないかと思います。

さて、世界文化遺産としての正式な登録は「富士山 — 信仰の対象と芸術の源泉」だそうです。こちらは富士講などの富士信仰や葛飾北斎の浮世絵、更には銭湯の壁絵まで、私たち日本人にとって富士山は文化的にも特別なものですから、文化遺産でもしっくりきます。・・・グタグタと御託を並べましたが、OB 会員の皆様は「自然」を愛するワンダラーですし、YVW は長年「文化」系サークルに所属しています。自然でも文化でも富士山が世界遺産に登録されたことに間違いないので、素直に喜んで祝いましょう。

祝 富士山世界遺産登録

ということで、特集を組み OB 会員の皆様が撮影した富士山の写真 9 枚を掲載することに致しました。OB 会ホームページからの転載やご提供頂いた写真で構成しましたので、ご覧下さい。

祝 富士山世界遺産登録 特集③



黒岳・釈迦ヶ岳から 2010.09



富士山 剣ヶ峰 2013.08



高畑山から 2013.05



富士山頂からの富士山の影 2013.08



九鬼山からの富士山
2009. 01

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。

自由投稿コーナーの原稿、写真、スケッチ等どしどしお寄せ下さい。

宛先 石垣秀敏 (20 期) gakky@s2.dion.ne.jp

成島和仁 (22 期) suikyou3@m3.spacelan.ne.jp

編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YWVOB 会会報第 54 号

発 行 行: 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

発 行 日: 2013 年 9 月 7 日

発 行 責 任 者: 鈴木弥栄男(9)

編 集 責 任 者: 編集委員長 石垣秀敏(20)

編 集 集: 編 集 委 員 成島和仁(22)

印 刷 所: 株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1